

(2) 現実的な気象条件で想定

- ・ 火災に影響する風速については、首都直下地震対策専門調査会の想定した 3 m/s、15m/s に加え、冬の平均風速の約 2 倍の 6 m/s も想定する。

首都直下地震対策専門調査会の想定した 15m/s は、関東大震災時の風速で特殊な条件の下での風速である。

(3) 実態に即したデータを活用

- ・ 都及び区市町村が震災対策に活用できるよう、地盤、急傾斜地、建物道路等について詳細なデータを活用し、区市町村別に被害を想定する。
- ・ 消防の二次運用を見込むなど、各局・防災機関の活動実態を踏まえて想定する。

(4) 都市型災害を想定

- ・ 都市型災害を踏まえ、エレベーター閉じ込め台数、主要なターミナル駅別帰宅困難者数などを想定する。

(5) 首都圏初の新たな被害想定

- ・ 中央防災会議首都直下地震対策専門調査会の被害想定に基づき、首都圏で初の被害想定の見直しである。

今後、この被害想定をもとに首都圏の各県市に首都圏被害想定の実成を働きかける。

3 被害想定的前提条件

(1) 想定地震

	想定地震	
種類	東京湾北部地震	多摩直下地震 (プレート境界多摩地震)
震源	東京湾北部	東京都多摩地域
規模	M6.9 及び M7.3	
震源の深さ	約 30 ~ 50Km	

(2) 気象条件等

- ・ 震災被害には、地震の発生する季節、時刻、気象条件が大きく影響するため、被害が最大になるとされる季節、時刻、気象条件を選択した。
- ・ また、火災による建物被害や火災による死傷者等については、風速による違いも考慮した。

季節・時刻・風速	想定される被害
冬の夕方 18 時 3 m/ s 6 m/ s 15 m/ s	<ul style="list-style-type: none">・ 住宅、飲食店などで火気器具利用が多い時間帯であり、これらを原因とする出火数が最も多い。・ オフィスや繁華街周辺、ターミナル駅では帰宅、飲食のため多数の人が滞留し、ビル倒壊や落下物等により被災する（昼間人口の死傷者数が最大）。・ 鉄道、道路もほぼラッシュ時に近い状況で人的被害や交通機能支障による影響が拡大する。
冬の朝 5 時 6 m/ s	<ul style="list-style-type: none">・ 阪神・淡路大震災と同じ発生時間帯で、多くが自宅で就寝中に被災するため、家屋倒壊による死者が発生する（夜間人口の死傷者数が最大）。・ オフィスや繁華街の屋外滞留者や鉄道、道路利用者は少なく、帰宅困難者の発生はほとんどない。